

# 今はじめれば未来が変わる。みんなの活動を紹介します。

県内各地で環境活動の芽が出てふくらんでいます。あなたも積極的に参加してみませんか。毎年恒例の行事もあるので、ぜひ来年は参加してみてくださいね。

県では、環境保全活動や環境教育の指導者として活動する環境活動リーダーを養成するため、昨年度に引き続き「環境マスター養成講座」を開講し、昨年12月、講座を修了した9人を新たに環境マスターとして認定しました。

環境マスターは、環境学習会・自然観察会などの企画や、環境について学びたいみなさんのお手伝いをします。環境学習会を開催する際には、お気軽にご相談下さい。今回は新しく認定された環境マスターを紹介します。

氏名	専門分野	所属	連絡先 TEL
加藤 秋雄 (青森市)	森林環境保全 自然観察	間伐・枝打ちなどの森林環境の整備、 里山の環境保全について	0172-62-9300
鎌田 謙 (青森市)	森林環境保全 自然観察	里山の自然解説、間伐・枝打ちなどの 森林環境の整備について	090-4880-8626
釜沼 ティ (青森市)	環境教育	環境汚染による生態系への影響、 二酸化炭素とエネルギーについて	017-781-6336
久保田勝二 (弘前市)	環境保全	大気や水環境の保全、 環境マネジメントシステムについて	0172-97-2157
佐藤 雄大 (五所川原市)	食・農業 農業環境	農業と環境の関わり、農業の多面的な価値について	090-9825-6021
新町 薫 (八戸市)	エネルギー	省エネルギー、太陽光発電や風力発電などの 新エネルギーについて	080-3191-3199
藤原 幸子 (青森市)	自然観察 自然体験活動	自然観察のガイド、自然体験活動について	017-734-9241 (環境政策課)
古川 克司 (八戸市)	環境保全	生活排水や廃棄物の環境負荷について	0178-43-2111 (内 675)
成田 繁子 (弘前市)	エコクラフト リサイクル	環境家計簿、リサイクル素材を利用した物作りについて	080-1670-2363

● 環境マスターの詳細情報については、青森県環境ホームページ (<http://www.pref.aomori.lg.jp/kankyo/econavi/guide/meister/top.html>) をご覧ください。

「環境マスター」を新たに認定しました！  
環境学習会の講師として活用ください！

## 環境マスター 活・動・紹・介

2月25日、八戸市の馬淵川河川敷で、環境マスターの池田光則さんが代表を務めるNPO法人水辺の楽校まべちの主催で「親子冬鳥観察会」が開催されました。今年は暖冬のため、例年に比べて観察できる野鳥の種類は少ないとのことでしたが、それでも、ハクチョウやカモなど24種類もの野鳥を観察することができました。



参加者は、河川敷で野鳥を観察した後公民館へ移動し、図鑑を見ながら、観察した鳥の名前や、どういう場所に生息しているか、何を餌にしているかなど確認し、絵を描いてその特徴を話しました。また、環境マスターの加藤正貴さん、相馬孝さんが進行役となり、参加者全員で、野鳥などの野生生物と、すみか、食べもの、水といった生物に必要な環境

との関係を考えるゲームをしました。野鳥観察をした場所には、以前はハクチョウがいなかったそうですが、川の流れの蛇行によって川岸が砂浜のようになり、ハクチョウが集まるようになったそうです。野鳥の中には、川岸の低い木の下で羽根を休める鳥や、背の高い木に止まる鳥もいて、たくさんの種類の野鳥が生息するためには、いろいろな環境が残

されていることが必要なのだという説明がありました。

観察会へ参加した人たちは、身近な場所にいる野鳥の名前や生態について知ることで、それらの鳥に必要な環境や、その環境を守ることに大切さなどを考えるきっかけとなったのではないのでしょうか。



## 久保田 勝二

今回の講座で、多くの人たちが早い時点から、地球環境の問題に取り組んでいることを知り、もどかしさを感じました。

世の中では「気温が数度上がるくらいなら人類は十分生きられるのに、何故世界は騒いでいるのだ」とか、「地球が暖かくなれば過ごしやすい」という言葉も聞かれます。気温が数度上がることが地球環境ごどのような問題を引き起こすのか、どのような波及効果があるのかについて、多くの人たちは十分聞かされていないのではないのでしょうか。

世界は地球温暖化に直面して、経済発展と資源・エネルギー、食糧供給などのいろいろな課題に向き合わざるを得なくなり、昨今では、政治においても、経済社会においても、地球環境の非常事態にいろいろな施策を実施しはじめました。

将来にわたって持続可能な社会へ導くためには、一人一人が自覚すること、環境保全の大切さを伝える教育がなされる必要があります。環境マスターの役割はこの点にあると考えています。環境マスターの活動の仕方としては、あまり大きなテーマを選択するのではなく、また無理強しせず、環境を守ることの大切さに気付いてもらうことが大切だと考えています。

どうしたら環境を守ることの大切さに気づいてもらえるか考えながら、地球環境の問題を、少しずつ丁寧に伝えていきたいと思っています。そして、環境について考える人たちの輪が広がることを信じて行動を開始したいと思います。

## 鎌田 謙

地球温暖化の影響を感じたのが、2007年の冬でした。私は、山や森林などの自然環境に関わっているので、故郷の豊かな自然を、共通の目的を持った仲間たちと守りたい一心でこの講座を受講しました。

講義内容は多岐にわたり、一口に「環境」といっても広範囲であることを改めて実感するとともに、これからの自分の行動指針樹立のヒントを得ました。また、養成講座のカリキュラムは多様で、その充実した内容に驚き、実践に向けて専門的なことを多く学びました。

私の行動指針のひとつに「百の言葉よりひとつの実践を」があります。沢山の専門的知識を得ても、何ひとつ実践出来なければ「マスター」とは自分を紹介出来ません。その実践は2007年を元年として、多く仲間と手を取りあって、環境保全活動に積極的に貢献したいと思っています。

環境マスターとしての抱負を語っていただきました。

## 新町 薫

「地球環境問題って一体何？」と問いかけた場合、漠然としすぎてよくわからない、沢山ありすぎて何から取り組めばよいのかわからない、個人的なレベルではどうしようもないのではないかと、そんな話が聞かえてきます。また、「何とかしなくては」と考えている人でも、行動が伴わない場合があったり、行動するきっかけが無かったり、ガソリンの高騰など目の前に起こることに対しては敏感でも、地球規模でおきている現象には、現実味が無いので無関心だったりします。

私は、現在の環境問題は、実際に目の前で起こっているからでは手遅れになるものであると認識しています。現時点で起こっている現象だけではなく、将来の子ども達やその子ども達のことを考えて、様々な問題を解決していかなければならないということ、環境マスター講座を通して改めて感じました。

環境マスターとしての活動は、一般の方々の意識改革をしていくことだと考えています。単なる机上論ではなく具体的にできることを、他のマスターの方たちや、同じように環境に取り組んでいる方たちと一緒に進めていき、「何とかしなくては」と思っている人達の背中を押してあげることが出来ればと思っています。

## 藤原 幸子

私は環境マスターとして、自然観察を通じ、地球上の全動植物が共存と循環をうまく継続していくことがなにより大切なのだという事を伝えていきたいと思っています。

例えば、1枚の葉っぱの葉柄(ようへい：葉を茎や枝につないでいる細い柄の部分)は、葉の大きさや太陽のあたる位置の違いによってその長さや太さが違い、その角度を変えてできるだけ多くの太陽の光を浴びようとしています。そして太陽の光と水、空気中の二酸化炭素から養分をつかって植物の命を維持し、食物連鎖により動物へ食物を供給することにつながっています。葉っぱの葉柄一つをとってみても、その働きが私たちが含む他の生き物の命と関わっていることを自然の中で伝えられたいと思います。

また、枝打ちや川で拾った端材等を使用して作品を作り、自然を活用して楽しむということも実践したいと考えています。

## 県内の様々な団体による 研・修・交・流・会 が行われました。

3月17日、青森市にある「ラ・プラス青い森」において、「平成18年度環境活動表彰・研修交流会」が開催されました。この日は、永年にわたり県内の生活環境の改善に尽力した個人・団体に対する「生活環境改善事業知事表彰」と地域において意欲的に環境保全に取り組んでいる団体に対する「環境活動パートナーシップ推進事業表彰」の表彰式が行われ、環境活動パートナーシップ推進事業表彰を受けた団体による取り組み発表が行われました。(表彰者、表彰団体についてはP12)

また、表彰式の終了後には、県内で環境保全活動に取り組む皆さんが参加し、日頃の環境活動の中で抱えている悩みや課題を話し合い、ネットワークづくりを進めることを目的に「研修交流会」が開催されました。研修交流会には、活動報告を行った団体のほか、こどもエコクラ

ブのサポーター、地球にやさしい青森県推進事業所の登録事業所、青森県環境ISOネットワーク加盟事業所(環境マネジメントシステムISO14001取得事業所)、地球温暖化防止活動推進員、環境マスター、環境保全活動団体に所属する方など、さまざまな立場で環境活動に取り組んでいる約70名が参加しました。

研修交流会では、参加者が地域ごとに8グループに分かれ、お互いの環境活動について紹介した後、あらかじめ参加者に提出してもらった環境活動における課題から「環境活動に取り組む個人・団体・事業所・行政等が連携して活動を進めるために」、「明るく楽しいより魅力ある環境活動に発展させていくために」、「一人でも多くの県民に環境問題や環境活動に関心を持ってもらうために」という3つのテーマをとりあげ、グループ毎にその中の1つを選択し



て話し合いをしました。そして最後に、各グループがまとめた意見を発表して参加者全員で意見交換を行いました。

今回の研修交流会は初めて開催されましたが、環境活動に携わる者同士が話し合うことで、日頃の活動での課題解決のきっかけとなり、また参加者相互の情報交換を通して、さまざまな立場で環境活動に取り組む方たちの連携につながっていくことが期待されます。